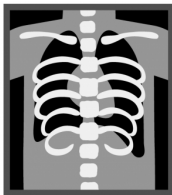


胸部X線撮影

胸部X線撮影は胸部レントゲンともいわれています。

息を大きく吸い込み、肺を膨らませ、X線を照射して、胸部の状態を写し出し、肺や心臓、縦隔などを調べる検査です



胸部X線撮影は、肺がん、肺炎、胸膜炎、気胸、じん肺、肺気腫、心臓・大動脈肺動脈の異常、リンパ節腫大、骨の異常（脊椎や肋骨の骨折・変形）などいろいろな異常が分かります。

胸部X線撮影は肺がん健診で実施される検査の1つです。

肺がんの日本の全がん罹患率は約790（人口10万人対）です。部位別にみると肺がんは男性で4位、女性で3位です。しかし、がんの部位別にみた死亡率は男性で1位、女性で2位であり、私たちの健康をおびやかす重大な脅威です。

肺がんの主な原因に喫煙習慣があります。日本人を対象にした研究では、たばこを吸っている人のたばこを吸わない人に対する肺がんの相対リスク（なりやすさ）は男性で約4倍、女性で約3倍です。（国立がん研究センター：がん対策研究所）多くの研究では喫煙指数（1日あたりの喫煙本数×喫煙年数）が多いほど肺がん罹患リスクが高くなります。一方、禁煙してからの年数が増すほどリスクが低くなる傾向があります。また、肺がんの組織型（タイプ）別では扁平上皮がんで相対リスクが1.1倍、腺がんで男性で2.3倍、女性で1.4倍です。

がん死亡原因の第1位となっている肺がんを減らすためには禁煙は非常に大切です。

※出典：国立がん研究センター がん情報サービス「がん統計」（全国がん登録罹患データ）

肺がん検診は、胸部単純X線検査や単純X線CT検査、喀痰細胞診を用いて検査します。（推奨される年齢や喫煙指数があります）

この検査で浴びるX線の量は1回0.06mSvとごくわずかです。1年間に人が自然に被曝する線量（1mSv）に比べるとごくわずかですが、妊娠中の方および妊娠の可能性のある方には実施していません。